

# “ふじのくに”<sup>しみん</sup>士民協働 事業レビュー結果

(文化・観光部)

事業	15	事業名	伊豆文学賞等開催事業費
----	----	-----	-------------

## 1 基本情報

実施日／班名	9月7日 第2班	時間	14:00~14:56
担当課名	文化政策課	事業費	6,000 千円

## 2 レビューの結果 施策目的に対する効果の程度

結果	一定の効果がある	判定区分	県民評価者の内訳	
			大きな効果がある	6
			一定の効果がある	20
			あまり効果がない	16

## 3 県民評価者の意見（レビューシートから転記、下線があるのは口頭で発表された意見）

### (1)見直し・改善策

目的・指標	
対象・範囲	<ul style="list-style-type: none"> <li>・絵本の部門も一考願いたい。</li> <li>・やはり伊豆とつくならば、伊豆を題材にしたものに限るべきではないか。</li> <li>・題材を伊豆に限定する必要があるのか。富士世界遺産化したこともあるし、裾野を広げるべきではないか。「伊豆」のタイトルにこだわるべきか。</li> <li>・伊豆文学賞及び文学塾他のイベントや表彰の他フェスティバルについては、県内各地域で行うべきである。</li> <li>・「伊豆文学」というブランドを守ることは大事ですが、目的と対象が一致していない。こだわりの観点がずれている気がします。伊豆に関わるものを題材として行わないのであればこれだけの事業費をかけて開催すべきではない。</li> <li>・①全県を対象とするなら、伊豆文学賞の名を変えるべき。②又は、表彰の場所のみを残すなら表彰場所を伊豆に限定すべき。②なら地元負担でやるべきである。</li> <li>・伊豆で県内を含めるなら、県外を対象にしてもよいのでは。</li> <li>・静岡県圏域に拡大したのなら、ふじのくに“伊豆文学賞”にしなくてはいけない。</li> <li>・伊豆文学賞開催ですが、浜松にも徳川家康があります。浜松で文学賞を取って伊豆文学賞としたらおかしい。静岡文学賞とすれば分かりますが。</li> </ul>
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ふじのくに芸術祭開催事業費を廃止して、賞金を倍額し、あと 53 回続ければ、ブランドになるかもしれない。</li> <li>・平成9年から開始しているという事ですが、まだまだ認知度が低いと思います。募集、広告等しているようですが、あまり見かけてないし、もっと広告に力を入れてみては。審査結果の発表も広くやってみては。</li> <li>・伊豆文学賞のネームブランドを上げる努力が必要。</li> </ul>

事業内容

- ・伊豆文学賞はぜひ広めてほしい文化だと思います。小～高校生の応募が増えていけば、将来的に作品の応募が増え、良い作品も増えていくのではないかと。
- ・良い事業ですが、伊豆文学賞の伊豆が強すぎています。いっそ「文学伊豆賞」にすれば理解しやすいのではないのでしょうか。
- ・市町が行う文学賞を支援する形の関わりもあるのではないかと。地域性をもっと活かせる文学賞を、静岡県の中で育てていく姿勢が必要ではないかと。
- ・文学か観光か何が大切か分からない。ひとつに絞るべき。
- ・文学賞事業なので、文字に重きをおいて活動すべきである。
- ・文学賞として何を指すのか明確に。
- ・もっとPRすべき。
- ・伊豆文学賞の名称はやめて静岡文学賞とする。これを県内活性化につなげる。伊豆だけでは今後作品数に限りが出てくるのではないかと。
- ・表彰式と文学塾は現在のままでよい。行事は伊豆を主にする。
- ・最優秀賞は何の媒体で発表するのか。いっそTV局とコラボでショートドラマ化するといった景品のほうが刺激になるかも。
- ・県外へのPRを工夫し、文学賞としての価値を高めてほしい。
- ・伊豆文学賞をもっと広めていくことが大事なのか、伊豆の観光のほうを盛り上げるべきなのか、決めて集中したほうがよいのではないかと。
- ・5/1～10/1であれば夏休み期間も含んでいるのに、学校、学生への働きかけが弱いのではないかと。もっと応募者を増やす努力すべき（努力不足を感じる）。
- ・伊豆文学賞の地位の確認（位置付をTOPまで引き上げることを優先するべき）。伊豆文学賞の価値観を前面に打ち出したほうがよい。地域（場所）の部分に関していえば、特に伊豆文学賞のブランドが大切。
- ・伊豆文学は私も聞いたことがあります。他の芸術事業は知らなかったけれど、何かのテレビで見たと思う。もっと広報が必要ではないかと。
- ・PR活動をもっとしてほしい
- ・もっと予算を増やしてほしい
- ・伊豆のブランドが強すぎる（静岡県内の文学作品をよしとするなら、それぞれ別の賞を作るべきではなか）（伊豆地域部門賞、静岡県県内の文学作品賞）。
- ・伊豆で行うなら地元負担で行うべき。県外の人にしてみれば、伊豆まで行くまで交通費、時間がかかってしまい、行きたいと思う人が少ないのではないかと。
- ・伊豆文学のブランドにこだわったほうがよいのではないかと（伊豆の名前にこだわって）。
- ・作家が意欲を燃やせるように賞金を増やす（倍額又は300万円位）。
- ・県でもPRする（広報など）。
- ・最優秀がなければ次年度に繰り越してもよいのではないかと。
- ・位置付けができていない。目標、立ち位置を明確にすべき。メッセージ部門はよい。
- ・小学生の推薦図書にはいかがでしょうか。
- ・一般の人が手にする機会を増やすためにPRをすべきである。
- ・伊豆のイメージアップを図るためにもネーミングを変えることも大切。若者が伊豆に対してどう思っているか、都会的ではないが、何か魅力的なものが必要。
- ・県としては、文学賞のネームバリューを上げる施策に注力した方がよい。
- ・優秀作品の活用法として、SBSやK-Mixでラジオドラマをやってはどうか。メッセージ部門はCMに利用できないかと。
- ・テレビ・ラジオも活用して「伊豆文学賞」「ふじのくにの文化を発信」を広く知ってもらう事で、質、量のUPにつながるのではないかと。
- ・文学賞の関連事業は、市町、民間で実施すれば充分ではないかと。
- ・地域活性化は、伊豆文学賞と切り離して、市町主体で行えばよい。文化観光部は、文学賞のネームバリューUPに注力する事で役割分担を明確にしてはどうか。

## 事業内容

- ・伊豆文学賞「メッセージ部門」は、原稿用紙1枚から応募可能にしたほうが、応募者がさらに増える。メッセージは短いなかにも大事なことを伝えられるので。
- ・そもそもコンセプトは何か。議論で取りざたされていたが、文学そのものに力をいれるのか、伊豆の地域振興に力を入れるのか、はっきりした方がいい。他県の文学賞との差別化が必要。
- ・文学賞の登龍門的存在になることを理想として掲げるのなら、県内外に文学賞の存在を広めることが重要である（文学の地である伊豆のこと、実績などを情報に含めて）。
- ・認知度を高めるためのPRをもっとすべきではないか。
- ・伊豆というテーマと事業内容との統一性がほしい。
- ・今まで伊豆にずっと住んでいながら、伊豆文学賞の存在を知りませんでした。資料の「募集・広報等」にテレビがありませんが、これがないとやはり広まるのは難しいのではないか。
- ・募集広告の方法で、本屋、図書館など書物を扱う施設で宣伝をすることにも効果があるのではないか。
- ・1つに目的をまとめて、伊豆のブランドを明確にして大きく宣伝していくべき。今のままでは県外はおろか県内ですら認知されていない状態が続いていってしまう。
- ・伊東出身なのですが存在すら知りませんでした。もっと地元はもちろん、知名度を高めた方がよいです。
- ・高校の図書館で手にした人は多いと思う。知名度、ブランド力を上げるためのPR方法、発信方法を考えるとよい。
- ・私は大学生ですが、大学などの高等教育の場でも読みたい。
- ・伊豆文学部門／静岡県内部門など、分けたいのでは。
- ・「静岡県の魅力を全国に発信するため」なら、伊豆でやる必要性はないのでは。もしくは、伊豆への寄与があるなら伊豆が主催すればよいのでは。
- ・文学賞と観光などを結びつけ、イベントのように文学塾を開催するのはとてもよいが、もっと目的をはっきりとさせて、観光を盛り上げるような文学賞になればいい。
- ・観光PRを兼ねたものでないと市町や業者もついていかないし、そもそも県事業でやるべきことなのか。宣伝力のある出版社とのコラボでないと、応募数は増えても先細りになるか質の低下につながるだけでは。
- ・伊豆に限定するなら、漱石や太宰といった著名作家が執筆した部屋などの文士ゆかりの地巡りスタンプラリーでも企画したほうが、文芸と観光の両面の分野でウィンウィンになる。
- ・メッセージ部門が入ったことで若年層が身近になったことは大きいですが、目的はぶれないで、ブランド化の方向が決まったらたくさんの物に手を広げず、ブランド化を重要視するのは大切である。
- ・文学賞を含めた地域振興においては、県内外から人を呼び込む、見る人・参加する人にとって魅力的な事業（イベント）として行政のプロデュース力が求められる。地域の内発的発展を支援する方向をより追及することが必要である。
- ・「有名な作家が伊豆にゆかりがある」ことと、作品の対象分野が「文学」であることは繋がっているが、作品の内容や題材には繋がりが無い場合もあるため、県民に伝わらず出品をする前段階でやめてしまう人も出てくるのではないか。対象を分かりやすく。
- ・伊豆文学賞の価値をどういう方向性で造っていくのか、一度明確にしたほうがよいのではないか。
- ・伊豆に限定すればするほどブランド力は上がる。県として大々的に主催するならば、伊豆という限定をせずに、県内各地の魅力を文学に反映したものを発信するという手法もある。
- ・賞金をもっと出して、副賞も県内産地のものを出すなどして、全国から作品が集まるように。

## (2)その他の意見

- ・H21年度の事業仕分けで民間への移管となっていたようですが、移管していないのでしょうか。
- ・県の担当者の回答は取り入れよう！変えよう！という姿勢が見られない。
- ・600万円なら“遊び”としてもいいのかも。この賞があることを知っている人はどれくらいいるのかな。直木賞、芥川賞のようにはならないでしょう等々で、いずれにしてもよく分かりません。したがってあまり効果も期待できないのでは。
- ・結果として活性化するには、地元の協力が必要であり、目的外にしたほうがよいのでは。
- ・文化・芸術とお役所仕事（予算の消化）とは対極をなすもので、数値目標は全くなじまない。しかしながら、お金の換算できないだけに、民間にすべて任せることも不可能で、公的な援助は必須である。県職の皆様には、いろいろご苦勞あると思うが、ルーティンワークにとらわれることなく、常に新しい取り組みにトライしていただきたい。
- ・静岡をPRしたいということなら、最初から伊豆の名前をつけるべきではなかった。
- ・伊豆じゃなくても良いのですか？なぜ“伊豆”にスポットを当てたのか、理由が分かりません。伊豆のみの文化振興になるのでは。
- ・東部地区限定のような気になってしまいました。
- ・応募者数が増加していること、コストを維持していることを考えると、継続してもよい事業である。（ただし、少ない）
- ・子どもたちも静岡県、地域、文化について考えるチャンスとなる。（エリアは県内であればOK）
- ・基本的ネーミングについては、伊豆地域の活性化につながると思う。つまり、伊豆がたそがれている中、むしろ伊豆もブランド+地域も抱き合わせて県内の地域活性化に良い、OK。
- ・ブランド力を高める、地域活性化、地域観光化は全て相関関係にある。
- ・認知度が低すぎる
- ・基本的にインターネットは見ないので、どのように募集をしていくのか気になる（インターネットを見る人は、興味のあるものは見るがないものに対して見ない人が多いと思う）。最近では新聞も取らない人もいるので、そういう人にはどういう対応していくのが気になる。
- ・伊豆文学関連イベント、観光、まちづくり、よいと思います。よく分かりました。
- ・伊豆が大なり小なり入っているほうがよい。
- ・伊豆文学賞をブランド化したいと考えた場合、題材が県内全域に広がることにより重要ポイントの理解がしにくくなる。
- ・ブランド化はどのレベルか。費用対効果はよく分からない。
- ・伊豆は県内でもある意味ブランド化された地域なため、名前に関しては全国に浸透していると思うが、この賞に対する県民認知度の低さが気になる。
- ・名前と対象作品の不一致でコンセプトが伝わりづらい。
- ・外からこの賞をみた際に魅力を感じない、感じにくい。
- ・県民認知度が低いことは改善されていないと感じる。
- ・文士としての伊豆のブランドはとてもよい。
- ・大きな効果があるとは現在言うことはできませんが、可能性は大いにあると思います。
- ・地域の文学館との連携は素晴らしい。
- ・県が主催するメリットを感じない。
- ・伊豆文学賞という名前からも県内各地の魅力をテーマにした作品を応募しにくいのでは。